

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 洛和福祉会	代表者	矢野 一郎	法人・事業所の特徴	平成24年4月に開設した事業所であり、建物も新しくご利用者もスタッフも明るい事業所です。グループとしては2番目の小規模多機能居宅介護事業所であり、事業所間の情報交換・連携も行っています。レクリエーションに力を入れており皆さん楽しんで下さっています。ご利用者やご家族の意向を大切に、柔軟な対応を心掛け支援させて頂いております。
事業所名	洛和小規模多機能サービス 山科西野	管理者	岩崎 安信		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	1人	2人	2人	1人	1人	2人	0人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	「以前の暮らし方」について、まだまだ把握不足である為、引き続き情報収集に努める。	情報収集が不十分である為、新規利用時に出来る限りの情報共有を行なう。	・ミーティング用紙に利用者のニーズを記入する欄を設ける等、利用者の言葉や思いを聞き取ろうとされているのがわかった。	新規利用者の受け入れに際して、カンファレンスを行ない、記録に残し職員全員が閲覧出来る状態にする。
B. 事業所のしつらえ・環境	利用者の作品も季節ごとに変更し、外部にもっとアピールする手段を検討する。	職員内で担当者（レク担当）を設定し、季節ごとに設えを変更する様にした事で実施は出来ているが、外部アピール方法が不十分。	・季節ごとに利用者の作品を展示されており、季節感や暖かみを感じられるのが良いと思います。 ・きれいに整理整頓されている。	月の行事担当者が、月毎にイーゼルを書き替え外部に情報を発信する。
C. 事業所と地域のかかわり	イーゼルの設置は継続し、アピールポイントや表示内容を有る程度の期間で変更する様にする。	イーゼル設置を忘れる事がある。	・玄関に掲示板を設置しており、これを見る事で当日の活動内容がよくわかると思います。地域の方がフラッと立ちよれる	業務チェックリストを作成し、出し忘れの無い様にする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域行事には利用者と共に、引き続き出来る限り参加する。	地域運動会に参加するなど、出来る限り参加出来ているが、参加出来ない行事もある。	地域行事に現場スタッフも参加することで、地域の方と顔の見える関係作りをしていくという意識をつけて欲しいと思います。	毎月実施される「お茶しませんか？」への毎月参加。
E. 運営推進会議を活かした取組み	地域の方へ職員の紹介が出来る仕組みを作る。	運営推進会議に他の職員も出席できれば良いが、業務上出席出来ない事が多く、新たな方法を検討する。	介助中であったりする中、職員さんは介助の手を止めないといけないので、我々委員が現場の見学をしながら関係作りをするのはどうでしょうか？	・運営推進会議後に委員の方々に現場見学をして頂き、同時に職員紹介をする。
F. 事業所の防災・災害対策	地域への発信を出来る限り早くし、より多くの地域住民に参加をお願いします。	交流会の実施等、地域住民の方々への認知度が上がっているお陰で、地域住民参加者は増えている。	火災時想定での訓練に不参加だったので、今後防災訓練計画など情報発信の場に参加し、知りたいと思います。	事業所防災訓練に地域の方々も参加してもらえる様、情報発信をする。